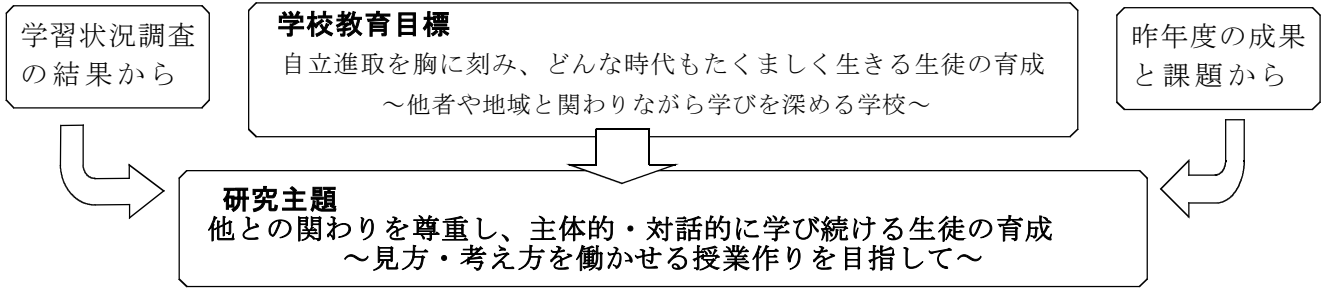


# 研究の概要



## 研究の仮説

今年度も「関わり」をキーワードにして研究を進めていく。

1つ目は『生徒と生徒の関わり』として、「関わりタイム」の実践である。昨年度も「関わり」をテーマに研究を進めてきたが、「関わり」の位置づけが曖昧で設定した「関わりタイム」では具体的にどのような活動をしていくべきかが不明瞭であったという課題があった。そこで、今年度は「関わりタイム」を【個で考え、その考えや意見を全体で共有し、もう一度、個で考える】時間として位置づける。その際にタブレットを効果的に用いて、教師が深い学びに近づくためにコーディネートしていく。

2つ目は『生徒と教師の関わり』として、課題の出し方を工夫していく。各調査により本校の生徒は、学習意欲は高く授業にも前向きに取り組んでいるが、「家庭学習時間が短い」ことで、学習の定着がなかなかできないという課題が明確になっている。そこで、生徒との関わりを大切にしながら、家庭学習時間を増やすための手立てとして、5教科の授業の終わりに毎時間10分～15分程度で終わり、その授業の復習となるような宿題を課す。そして、次の授業の始めに教師が生徒1人1人に声をかけながら宿題をチェックしていく。その日の授業の復習をその日のうちに家庭で復習し、その見取りも教科担当の教師が生徒と関わりながら行うことで、授業と家庭学習が繋がり、意味のある家庭学習時間が増え、基礎の定着に繋がっていくと考えている。昨年度はこの取り組みの成果として、県学習状況調査では1年生ではすべての教科で県平均以上、2年生では4教科で1年生時に比べての平均通過率が上昇した。

3つ目は、ユニバーサルな板書の統一と家庭学習ノートの繋がりを意識する。「どの教科でも」「学校でも家庭でも」同じように思考が整理されていく指導を目指したい。板書のスタイルが決まっていることで、家庭学習に取り組みやすくなるを考える。課題・ゴール・ポイントの板書の色と、家庭学習ノートのペンの色を統一することで授業と家庭学習との繋がりを深めていく。

各教科でこの3つの取り組みを意識しながら、「見方・考え方」を働かせた授業を構築していく。教職員全員で生徒と関わっていくことで、主体的・対話的に学ぶことの大切さに気付かせたいと考える。

## 研究推進のための共通実践事項（3つの関わり）

【生徒と関わりながら繋ぐ授業】

### 重点事項

#### 1 生徒と生徒の関わり

生徒の意見の出し合いで終わらず、深い学びを目指して、教師がコーディネートする。

- タブレットを活かして、生徒の意見でやり取り
- 他の意見に触れて、個の考えを深化

#### 2 生徒と教師の関わり

授業の始めに声をかけながら課題をチェックし、定着を看取る。

- その日の授業の内容をその日のうちに復習
- 授業始めに1人1人の生徒との関わりと見取り

#### 3 板書と家庭学習の関わり

授業ノートと家庭学習ノートの課題・まとめ・ポイントの色を統一する。

- すべての授業で統一されたユニバーサルな板書
- 授業を思い出しながら、家庭で復習

### 学びを支える3つの約束

#### 1 「始業時の約束」

「1分前着席」「全校統一あいさつ」

#### 2 「発言の約束」

「挙手→指名→返事→場に応じた声量と手段」

#### 3 「聴き方の約束」

「発言せず・顔を上げ・相手を見て」